

『庄内っこ日和』

令和4年7月19日
庄内こどもの杜幼稚園 教頭 岩崎巧

はじめに…
保護者の皆様いつも当幼稚園のモリのこっこにご理解、ご協力頂き誠にありがとうございます。
この『庄内っこ日和』は、令和元年度から掲採用として始めた、当幼稚園の園外保育での子ども達や先生の様子を、当学園の理念や方針と重ね合わせながら皆様にお伝えする”ドキュメンテーション”です。晴れたよい天気という意味もある日和という言葉は、庄内っこの未来を明るく照らしています。このお便りを通して、日々子ども達や先生の様子や当幼稚園の考えを少しでも知って頂けるきっかけとなれば幸いです。
今回は、モリのこっこ年中組(夏)能勢野外センターで自然遊びの様子をお伝えしたいと思います。

今回のねらい:他児や保育者と一緒に自然や生き物に触れ、初めての場所で遊ぶ事を楽しむ。



「こんな虫あったで！」

カブトムシ広場で、夢中で生き物探しをする子どもたち。園では、見たこともない・子どもたちは名前も知らない虫たちがたくさんいて大興奮。「こんな虫あった。」「なんて言う名前なん?」と興味津々の様子でした。

小さいものを探す経験は“注意深く見る”経験となります。カメラを下から取らないと表情が全く写らない程、子どもたちは姿勢を低く、注意深く観察していました。

子どもたちの目には、どんなものが映ったのでしょうか。子どもたちが“注意深く見ている”様子を是非ご覧ください。



モリのこっこ年中(夏) 能勢野外センターで自然遊び

能勢の山で自由あそび「なにがみつけれかな」

今回の活動では、連日の雨で川が増水していた為、急遽内容を変更し、能勢野外センターで自然遊びをしました。子どもたちは、山に到着すると「何があそびやろう…」とワクワク。危険生物がいた時の対処法や、遊ぶ際のルールを確認してから自由あそびをしました。木の根っこが長く伸びていることに気づき、“大きなかぶ”に見立てて「うんとこしょ。どっこいしょ。」と声を出して楽しんだり、曲がっている木を椅子に見立てて「いらっやいませ。椅子屋さんです。」とこっこ遊びが始まると、大変発想が豊かな子どもたちでした。自然豊かな環境は、子どもたちを情操豊かに育てます。

「こんなできたで！」

園に帰ってから、復日拾った枝や木の皮を使って製作あそびをしていました。子どもたちの中で、遠足は行ったらおしまいではありません。帰ってからも“新しいストーリー”がはじまります。

